

こつそりだいぼうけん

瀬戸内町立西阿室小学校 一年 いのり ひとえ

ぼくは、たながのたろう。にしあむろのきらきらひかるかわにすんでいます。おとうさんとおかあさんは、とってもやさしくて、いつもぼくとあそんでくれます。でも、きょうは、

「あああ。ひまだなあ。」

おとうさんとおかあさんはたべものをとりにいって、たろうはひとりぼっち。だれもあそんでくれるひとがいません。

やっとかえってきたおとうさんが、

「かわのながれがはやいぞ。」

といいました。おかあさんも、

「きをつけないとながされてしまうわ。きつとたいふうがやってくるわね。たろう、いえからでちやだめよ。」といいました。たいふうってどんなものだろう。まだたいふうをしらないたろうは、たいふうをみたくて、そわそわもじもじはじめました。たろうは、おとうさんとおかあさんにばれないように、たいふうをみにいくことにしました。

ばれませんように。そうっといえからでたたろうは、

おとうさんとおかあさんからかくれるため、くさがぼざぼざとはえているあいだをすりぬけて、おおきなかわのそばまでやってきました。いつもはさらさらとながれているかわが、じやらじやらとながれています。ガチャガチャ、ゴオゴオ、ビュッビュッ、バオバオ。いろいろなおとがあわさって、まるでかわのなかのたいがつそうがはじまっているみたいです。こんなおとを、たろうははじめてきいたので、うれしくてもつとたのしいことはなかなとおもい、ながれのはやいところにいきました。そのとたん、

「うわあああ。たすけてえ。」

たろうは、ながされてしまいました。せんたくきのなかでぐるぐるまわっているみたいです。「たすけてえ。」というたろうのこえは、おとうさんとおかあさんには、もちろんきこえません。ながいじかんながされて、やっとながれがゆつくりのところにきました。たろうは、おとうさんとおかあさんのいうことをちゃんと聞いておけばよかったと、ぼとぼとなみだをながしました。そのとき、たろうのめのまえに、いままでみたことのないきものがあらわれました。ジャポンジャポンとにじみているくもみたくないきもの。たいようみたいにおおきくて、いしをおんぶしていて、てとあしをちよこちよこ

いっしょうけんめいうごかしているいきもの。たろうがびっくりしていると、にじみたいなさかながこっちにやってきました。

「だいじょうぶ。どこからやってきたの。」

「かわ……。ここは、どこなの。」

「うみだよ。わたしはいるかのはなちゃん。」

「ぼくはたろう。はじめてうみにきたんだ。」

たろうがそういうと、びっくりしたくもみたくないいきものも、たいようみたいないきものもめをまるくしてきました。

「わたしはくらげのくらちゃん。」

「ぼくはうみがめのれんくん。はじめてきたなら、ぼくたちがうみをあんないするよ。」

とれんくんのかちかちのせなかにのって、うみたんけんがはじまりました。

わあ、おしろがある。たのしそうにおはなさんたちがゆらゆらしている。ぼくもなかまにはいたいなあ。あ、くじらばすだ。ぼくものりたいたい。すいすいおよいでいるへびもいる。すなのなかから、よろつとなにかがでてきたぞ。なんていうさかなだろう。

はじめてみるものばかりで、とつてもたのしくなったたろうは、

「うみってすてきなところだね。ぼく、だいすきになっ

たよ。でもね、ぼくのすんでいるかわもすてきなところだよ。」

そういったとたん、だいすきなおとうさんとおかあさんのおかおがあたまにうかびました。だまってでてきたから、ぜったいしんばいしているだろうな。どうしよう。はやくかえらないと。

「みんな、きょうはありがとう。とつてもたのしかったよ。うみにこんなたぐさんのおともだちができてうれしいよ。またいつかあそびにくるね。」

「さあさあ、はやくつかまりな。」

いつのまにか、にしあむろのかわにすむうなぎおじさんが、おとうさんとおかあさんにたのまれてむかえにきてくれていました。

「もう、かってにあそびにでちゃだめだぞ。どれだけしんばいしたことか。またきたいときは、おじさんがつれてきてやる。」

そういつて、いえまでおくつてくれました。

おとうさんとおかあさんは、ぼくをみてぎゅつとだきしめてくれました。つぎはひとりじゃなくて、かぞく三にんでうみにいき、ぼくのおともだちをしようかいしたいなあ。